

Strutsのソースと設定ファイルを完全自動生成する SOA時代のEclipseプラグインBlastJ for struts

JAVAの世界では、フレームワークの利用が普及し、だんだんと開発効率についても議論がなされるようになってきました。しかし、実際の開発ではフレームワークだけでは快適で効率の良い開発環境を手に入れたとはまだ言えないのが現実です。これからの時代は、部品の再利用だけでなく作業プロセスの再利用が必要です！

「フレームワークの時代」から 「フレームワーク+自動生成の時代へ」

もうすでに、フレームワークだけで開発の効率化はOKという時代は終りかけています。これからはフレームワークだけでなく、それに加えてフレームワークを使った開発方法論もセットで手に入れば開発競争には勝てない時代になってきています。

では、「開発方法論」とは具体的にどのようなことでしょうか？それは、簡単に言ってしまうと、そのフレームワークを使った設計の方法から、リアルな現場での作業方法のレベルまでブレイクダウンされた実装作業までの一貫した方法論ということです。

これからは、現場での作業の解析が非常に重要視されます。なぜならば、現場での作業方法を評価することなしに最適な「開発方法論」を選ぶことは出来ないからです。

全体思考を出来るかが JAVA開発の成否の分かれ目

Java開発は、PHPやASPなど他の言語による開発よりも敷居が高いという話をよく聞きます。また、Javaの開発で火のついていないプロジェクトも多々存在するのも現実です。

しかし、一方でJavaの開発をスムーズに行い、悠々自適にプロジェクトをこなしていく優良企業が存在することも事実です。

それでは、なぜそのような企業はJavaのプロジェクトをうまく遂行することが出来るのでしょうか？それは、設計の段階で次の実装の作業も考えながら設計を行っているからです。つまり、自分がいま行っている設計に集中しながらも、次の作業も考慮しながら設計するという、「全体思考」が出来るかどうかの分かれ目になっているのです。

SOA時代に対応したツール

最近ではオブジェクト指向に続き、SOA (Service Oriented Architecture) 及びサービス指向が話題を集めています。SOAは、オブジェクト指向で表現のしやすいデータモデルと、それらデータモデルに対する動作である動作モデルの2つの存在を意識して設計する為、非常に開発効率においても保守性においても有利な設

計が出来る為に非常に注目を浴びています。

BlastJでは、図のような4層のアーキテクチャーを対象にすることによって、各層の役割分担を明確にした設計を推奨しています。このアーキテクチャーにおいて、Strutsはコントローラ部分をサポートするフレームワークであり、BlastJはStrutsフレームワークを利用したコントローラの実装を自動生成します。



本製品はMessage from Vendorsでも紹介されています。詳しくはそちらをご覧ください。

